

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

蒼明学院中等部(笠岡市)の生徒が、情報技術(I T)で実現できる未来の社会や新たなサービスなどを提案するコンテストで「痛くない注射器」を提案し、優秀賞を受賞しました。記事を読み質問に答えましょう。

Q1

蒼明学院中等部の生徒が考えた「痛くない注射器」は、注射を打つときに痛くないようにするために何を噴射しますか。第3段落をよく読みましょう。

Q2

注射器が大量の廃棄物になっていることを知り、生徒はこの注射器にどんな工夫を考えましたか。

Q3

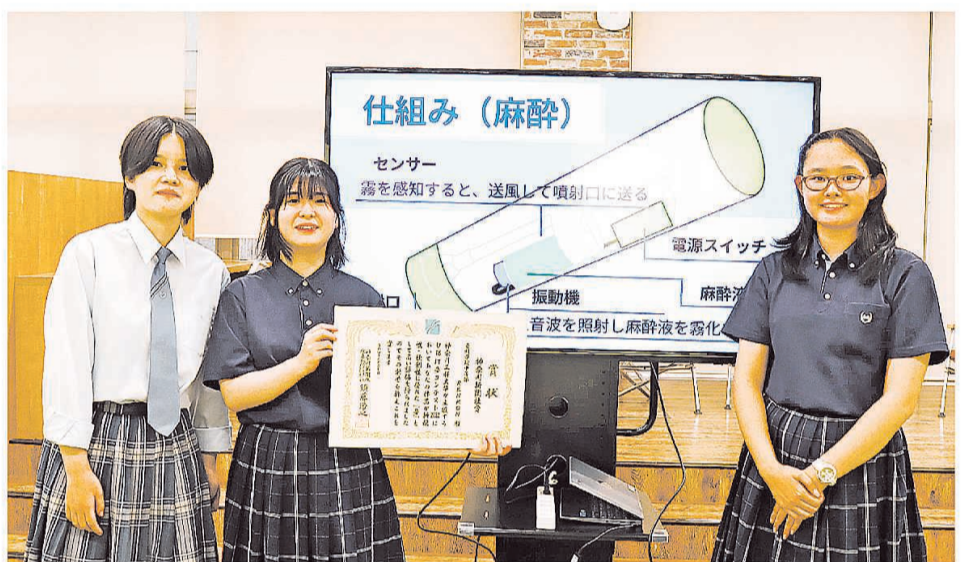
身の回りの困り事を解決するどんな製品があればいいと思いますか。考えてみましょう。

笠岡市笠岡の蒼明学院中等部の3年生3人が、全国の中高生が情報技術(I T)で実現できる未来の社会や新たなサービスなどを提案する「I T夢コンテスト」(神奈川県

科大主催)で最優秀賞に次ぐ優秀賞を受賞した。「痛くない注射器」をテーマに発表し、150以上の応募の中から中学生チームで唯一最終審査に進んだ。(谷本こころ)

夢は「痛くない注射器」

笠岡・蒼明学院中等部3年3人



全国中高生I Tコンテストで優秀賞

蒼明学院の3人

3人は、丸嶋麗さん(14)、武内真愛さん(14)、佐藤加恋さん(14)。学校の技術の授業がきっかけで同コンテストに応募することになり、5月中旬ごろから授業や家での時間を使って準備を進めてきた。アイデアは、佐藤さんが注射を打つ際に「痛くない注射があればいいのに」と考えたことが基になったという。肌に浸透しやすいよう分子レベルまで細かくした麻酔が皮膚に噴射されると、取り付けた装置が自動で薬品入りの容器と注射針を押しつけて接種する仕組みで、視覚的にも針が見えないような構造になっている。

またワクチンによって約14万本の注射器などの廃棄物が生まれたと知り、廃棄する部分が針と薬剤の容器だけ

麻酔を噴射 自動で接種 廃棄部分も削減

で済むような工夫も提案した。スライド資料による予備審査を通過した16チームが8月下旬にオンラインであった最終審査会に参加。事前に撮影したプレゼンテーション動画と質疑応答で、独創性や社会への波及効果などが審査された。3人は予備審査後に助言を受けた類似技術を使った製品との比較も新たに盛り込み、多角的な視点を持って提案している点などが評価された。

佐藤さんは「驚きとうれしさが入り交じっている。今回の経験を今後にも生かしていきたい」、武内さんは「楽しみながら取り組めた。最優秀賞を目指して来年も挑戦したい」、丸嶋さんは「新製品を作る難しさがわかった。将来は世界の人の課題を解決できるような仕事に就きたい」と話していた。

9月22日付山陽新聞、笠岡・井原・浅口圏版

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。